野田ゼミのテーマ

現場に暮らす生活者の立場からの地域づくり・地域ツーリズムの探求

常識や自分の考えを捨てて、現場の住民の立場に立って地域ツーリズム・地域づくり・環境保全政策など地域にかかわる政策論を検討していく

1

なぜ生活者の立場に立つのか？

地域社会にかかわる政策（地域ツーリズム・地域づくり・環境保全・コミュニティ政策）を立案する際には、住民の参画や協働が不可欠

行政も住民の考えを踏まえないと有効性が落ちることを痛感（絵に描いた餅になってしまう）

しかし、現実には・・・

住民は意見をコロコロ変えるし、一転して非協力的な態度をみせることも少なくない。地域社会は一枚岩ではないから、住民が納得・満足するような政策はとても難しい

2

では、どうすればいいか？

環境社会学者は徹底した現場主義を貫いて・・・

地域社会（地域自治会）の意思決定の仕組みを分析したり、その意思決定に影響を与える社会組織の機能を解明

住民の価値観や地域社会の論理を把握する独自の方法論を深化

それは“生活環境主義”という方法

3

ゼミの目的

つまり・・・

“生活環境主義”という方法を用いて、住民の価値観や地域社会の論理を把握することで、住民が意見をコロコロ変える理由や、一転して非協力的な態度をみせる理由を分析

地域社会が受容可能な政策とは
どのようなものであるのかを検討

現場に暮らす人びとが納得したり、満足する地域づくり（＝ウェルビーイング）とは
どのようなものかを探究！

4

テーマ

農村でも都市でも、
地域社会が抱える課題を扱うのであれば・・・

自 由

“生活環境主義”という武器を使って分析して、常識とは異なる新しい知見を発見することがこのゼミの最大の強み

5

進め方について

- 徹底したフィールドワークをもとに、現場から論理をつくっていく方法をマスター
（実際にフィールドに出掛けていく）
- 方法論としての“生活環境主義”とその思想についてレクチャー
- 2、3年生のときにはグループワークをしながら集団のなかでこそ個人が輝く能力を育てていく。3回生の途中から個人研究のテーマを選定し、個人研究に入っていく

6

選考について

- 定員に達した場合は書類と面談によって選考
- 選考基準は、学力ではなくて
  個性や感性を重視
- ゼミというひとつの組織（チーム）をつくるため、多様性、創造性を重視

7

メッセージ

学問的に“おもしろい”ゼミにしましょう！

私たちの方法は、机上の勉強ではなくて、
徹底したフィールドワークを通じて、
“人間の存在”や“社会のありよう”といった
本質的な問題を問い直すことにもなるからです

みなさんがフィールドで得た“驚き”や“感動”を
学問的なおもしろさまで昇華させ、フィールドの“迫力”や“リアリティ”を探求するお手伝いをしたいと思っています

8